

# 議員問討議、市長の反問権などを盛り込む

## 臨時議会で議会基本条例を制定。全国で134番目。

2010年11月1日。この日は上越市議会にとつて記念すべき日となりました。議会基本条例が制定、施行され、新たな歩みをはじめたのです。（写真は小猿屋小学校上空を飛ぶハクチョウ）

この条例が施行されたことにより上越市議会には、市民に開かれた議会へとさらに努力をしていくことが求められます。市政運営の監視、評価をキチンと行い、市民への説明責任を果たさなければなりません。積極的に政策立案や提言に取り組むのはもちろんのこと、議員発議による条例制定に取り組むなど立法機能の発揮に努めていくこととなります。市民の多様な意見を的確につかみ、市政や市議会に反映させていくことも求められることになりました。これまでほとんどなかった議員間の自由闊達な議論も議会活動の原則のひとつに位置づけられました。そして、市議会は不断の議会改革に努めていくと書き込まれました。



市長等には反問権が与えられました。質問した議員に市長等は逆質問できることになったのです。これだけでなく、議会の質疑の様子が変わるかも知れません。上越市議会の議会基本条例づくりは昨

年5月に議会基本条例策定検討委員会が設置されたことがスタートとなりました。以来、検討委員会を23回、検討委員会の幹事会的な組織である検討会を18回開催したほか、全議員に対する説明会を4回開きました。いうまでもなく市民説明会も開催しました。この開催は市内の4会場で行いました。また、パブリックコメントでは市民から寄せられた56件の意見を検討し、条例に反映させました。まだ、不十分なところがあるかも知れませんが、よくここまで来たものだと思います。

市議会臨時会で提案理由の説明に立った内山米六検討委員会委員長は、「これまでの既定の議会運営にとどまらず、積極的・持続的な改革を断行しながら市民の信託にこたえていくことが求められている」「二元代表制の一翼を担う議会として、時代の変遷に沿うその役割、果たすべき使命など、求められることは何かを議員一人ひとりが常に考え、議会として合意形成を図りながら不断の議会改革を行うことが重要だ」「この条例案は議会基本条例策定検討委員会がゼロベースから誠意をもって真剣に検討し、全議員の総意と市民の期待に応えた結晶だ。新しい条例に魂を入れ、生きたものにするためには、全議員のさらなる理解と協力が不可欠」とのべました。まったくそのとおりです。

提案された条例は全会一致で可決されました。上越市の議会基本条例の制定は県内では新発田市に次いで2番目。自治体議会改革フォーラムの調べによると、全国で議会基本条例を制定した自治体議会は11月1日現在、都道府県12、政令市3、特別区0、市76、町40、村3、合計で134議会となりました。

### シリーズ 上越市内の橋

第52回 高田橋



「高田橋」と書いて「たかだばし」と読みます。高田の市街地を流れる儀明川にかかった橋で、信越線高田駅から約150mのところにあります。いまから18年前の1992年10月23日。この橋のすぐそばの路上で、長崎県知事候補を応援する街頭演説会が行われ、身動きできないほどの聴衆が集まりました。大型宣伝カーの上で演説したのは不破哲三委員長（当時）、写真家の本田清氏、社会党の杉田惣平吉川町議（当時）など。忘れることのできない演説会となりました。選挙結果は大善戦でした。橋長は約10メートル。竣工は1998年（平成10年）5月です。

### 県立吉川高等特別支援学校

#### 初代校長に赤松雅史氏

県立吉川高等特別支援学校が11月1日、正式に設置されました。初代校長は県教育庁義務教育課副参事の赤松雅史（あかまつ・まさし）氏と決まりました。また初代の事務長となったのは、同じく副参事の田櫓歳弘（たやぐら・としひろ）氏です。

二人とも現在、高田養護学校内にある開校準備室勤務で、校舎などの工事が完了次第、原之町で勤務することになっています。予定では来年1月中旬ということですが。

県立吉川高等特別支援学校の開校は来年4月。来年度の入試は2月10日です。

毎日忙しく動いていると、ひとつの笑顔に出合っただけでも心が休まります。出会う笑顔はじつにさまざま。人に会う時はいつも笑顔というのあれば、NHKの朝ドラ「てっぺん」のおばあちゃんのように、たまにしか見せない笑顔もあります。私が以前住んでいた蛸場には、連れ合いと一緒に暮らしている伯母がいます。わが家からすぐ隣の家に嫁いだこともあって、わが家のことや私のことをずっと見守ってきてくれました。この伯母の笑顔には優しさがいっぱい詰まっています。

伯母は、「しんぶん赤旗」日曜版の配達の時などで訪ねた時はいつも微笑みを浮かべ、「お茶飲んでいかんねかね」と声をかけてくれます。お茶を飲みながら話してくれるのは、私の議会での質問の様子やこの「春よ来い」の話がほとんどです。質問の中にはよくわからないこともあるはずなのに、私の質問をケーブルテレビで最初から最後まで見てくれます。場合によっては再放送まで見て励ましてくれるのです。準備不足の質問もありますので恥かしくなります。でもうれしい。ひよっとすると、伯母にとっては、私の姿をテレビで見られるだけでも楽しいのかも知れません。お茶に誘われた時、「午後から高田へ行かんきやならんすけ、またにするこて」などと答えると、「だめか……。忙しいがだねや」とがっかりしています。

ちよっぴりであつても、周りの人たちに大きな喜びをもたらす「一瞬の笑顔」もあります。三年前に誤嚥性（ごえんせい）肺炎で緊急入院した時の父の笑顔がそうでした。あの笑顔は一生忘れることができません。

もう数日で年末を迎えるという日。痰を吐きだすことができなくなった父は救急車で市内の病院へ運ばれました。病状は重篤状態で、医師からは翌日の朝までに命の炎が燃え尽きることもありうると言われました。いうまでもなく、父には徹夜で付き添いました。幸い、その時は医師の懸命な治療の力があつて何とか持ちこたえてくれました。翌日、家族みんなの顔をみるのができ、うれしかったのです。この時、スクをつけていた父は、ほんの一瞬でしたが、笑顔を見せてくれたのです。この時、そばにいた家族が父の笑顔を見てどれほど喜んだことか。

写真の笑顔に心を動かされたこともあります。

数年前の秋のことでした。ある集落でひとり暮らしの男性が亡くなりました。まじめで仕事熱心な人でした。地域では信頼されていました。家庭的には恵まれない不運の人でした。お連れ合いとは二〇年ほど前に離縁、子どもさんとも離れ離れに暮らしていました。年金がもらえるようになってからしばらくして、癌に侵されました。病気が悪化し、長くは生きられないということが分かった時、このまま人生を終わることになればあまりにもかわいそうだと、誰もが思っていました。どなたかが動いてくださったのでしょうか、亡くなる三ヶ月ほど前、二人の子どもさん、それに別れたお連れ合いも加わって「お別れ会」を開いたとのことでした。

そして葬儀の日、式場にはお連れ合いと二人の子どもさんの姿がありました。目が不自由な一人の子どもさんは、父親と同じく、がっしりとした体格の大人に成長していました。お母さんの肩につかまり焼香し自席に戻った時、目はうるんでいました。

「お別れ会」がどんな会となったかは聞いていませんが、故人にとっては、うれしい会になったのではないのでしょうか。一時であつたとしても、人生の最後の最後に来て家族がひとつになったのです。遺影の笑顔がとても素敵でした。

## 住宅リフォーム促進事業、来年度についても検討へ



1日の臨時市議会で一般会計補正予算が上程され、全会一致で可決成立しました。今回の補正予算は歳入歳出予算総額に2億8,949万円を追加するもので、予算規模は1,098億2,645万円にふくらみました。

補正予算の主な内容は、国の追加経済対策に呼応して実施する学校、道路施設及び橋梁の耐震補強などの防災対策事業のほ

か、市独自の経済対策として実施する住宅リフォーム補助制度の新設及びプレミアム付き商品券の発行支援に要する経費です。

総括質疑では日本共産党議員団から平良木議員が登壇、住宅リフォーム促進事業の制度設計をどのような考えにもとづいて行ったか、今後の継続の見通しはどうかなどについて村山市長の考えをたずねました。

市長は、制度設計にあたって、「経済対策としての実効性の確保」に加え「利用者にとって利用しやすい制度」を念頭においたと答えました。また、本年度の取り組みを見ながら来年度についても検討すると答弁しました。

## 顔がよく見え、音もよく響きましたね

吉川区芸能発表会が1日、多目的集会場の大会議室で行われました。オープニングで、百華踊乱よしかわの子どもメンバーが「See the Rainbow」を踊ってくれました（私のホームページ、動画集で紹介しています）。この子どもたちはあちこちのイベントで大活躍です。

芸能発表会の会場はこれまでの体育館よりも狭いのですが、それがかえって良かった。踊っている人や演奏している人などの顔がよく見え、歌声もよく聞こえます。音もよく響きました。

例えば、吉川琴永会の大正琴の演奏。「高原列車は行く」などの3曲を12人が演奏しました。Kさんは肩を左右にゆすりながら楽しく演奏していました。顔を動かしてリズムをとる人もいました。この人は「恋のバカンス」になったら顔の動きが大きくなりました。この曲が好きなんですよね。久木崎和美先生の表情も素敵でした。

